



留学生
滞在記

My Life in Tokushima

徳島から人生の再出発

大学院口腔科学教育部 博士課程 3年

夏 霖 泽 (シャア リンゼ) [中国]

日本に留学して、もう3年が経ちました。この3年間を振り返ってみると、多くの素敵なことが思い浮かびます。留学前にいろいろ準備をしていたにもかかわらず、徳島に来たばかりの頃は言葉や生活習慣の違いから、大きな不安を感じていたことを覚えています。思い返すと笑える例ですが、レストランで上手に料理を注文できな

いのではないかと心配して、2週間ほどコンビニでお弁当を買っていました。少し日本の生活に慣れてきたときでも、食べ物を注文するときには「これ、これ」といった簡単な言葉やジェスチャーを使っていました。子どものような行動をしていたのですが、苦しくても新鮮で、おもしろい時間を過ごしていました。

少しずつ徳島での生活に慣れてくると、当初の不安はあたたかさや喜びに変わっていききました。大学の先生や友だちから受けた優しさや配慮、友だちとのイチゴ狩りやラフティング、仕事が終わった後の飲み会など、すべてが私を「成長」させてくれました。毎日、朝日や夕日を追いながら徳島の街を自転車で走り、キャンパスにいる

人たちが研究や仕事をしている姿を見ると、3年間のシンプルで静かな生活がいかに貴重なものがあるかを実感し、心が穏やかになります。このことが私の「留学生」の中であなたがたかくて大切なものになっています。私が日本への留学を選んだ理由は、専門を研究すること、国際交流をすること、文化背景の違う人

とのコミュニケーションをとることです。中国では歯学がまだ発展途上の段階にありますが、日本は世界でも先進的な水準にあります。また、日本はアジアで最も発展した国の一つで、言語、科学、文化においても大きな影響力を持っています。それで、私は専門の知識だけでなく、文化などいろいろなことを学びたいと思い、日本に留学しました。大学院修了後は、日本で習得した歯科教育や歯科研究に関する知識と技術を中国で活用し、臨床歯科医か歯科研究教育者になりたいと思っています。患者さんにリハビリテーションで安心や喜びを与えること、あるいは基礎研究で画期的な発見をすることが、私の今の夢です。そして、中国の歯科医学の発展と日中間の国際交流の推進に微力ながら貢献したいと考えています。この夢に向かって、これからもしっかりとがんばるつもりです。



友達とイチゴ狩り(筆者:最前列左側)



医局の同期の皆さんと一緒に(筆者:左端)



第57回四国歯学会でのポスター発表